

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.99

日時	2014年10月6日
行脚先	広島城
住所	広島県広島市中区基町
行事名	

特徴

別称は「鯉城(りじょう)」。広島城があった一体は昔「己斐浦」と呼ばれ、広島市西区己斐の地名は延喜式で嘉字地名とされる前は「鯉」であったと言われていることから、この名がついた。日本100名城の一つ。最も広がった時代の曲輪のうち内堀に囲まれた本丸と二の丸と三の丸の一部が現存し、広さ約12万平方メートル。大坂城や岡山城らと共に初期近世城郭の代表的なものである。名古屋城、岡山城と共に日本三大平城とも言われる。

黒田官兵衛との関わり

1589年(天正17年)4月15日鋤入れ式。この築城は同時期に進行しつつあった秀吉の朝鮮出兵に於ける前線基地となった名護屋城と、秀吉の拠点である大阪城や聚楽第を海路で繋ぐ中継基地(秀吉の宿泊所)としての期待をされた。全く平らな低湿地帯へ築城することに決まった際、家臣団の中で比治山山頂に築城する案と揺れた。そこで輝元の叔父である小早川隆景の友人である如水にアドバイザーとして参加を依頼した。如水は堅城となりうるとして低地案を推進し縄張を考案した。後日、秀吉がこの城を見物し「要害が悪い。水攻めをされたらひとたまりもない。」と評価した。輝元は如水に騙されたと憤慨したが、隆景は「要害の悪い城だからこそ安全。毛利の城の要害が良かったら、謀反の恐れあり、と警戒される。」と諫めた。そこから秀吉は毛利氏を弱体化させるため(浅瀬に築城したため島普請に相当な出費をしたことから)如水を派遣した、という話。

記録

